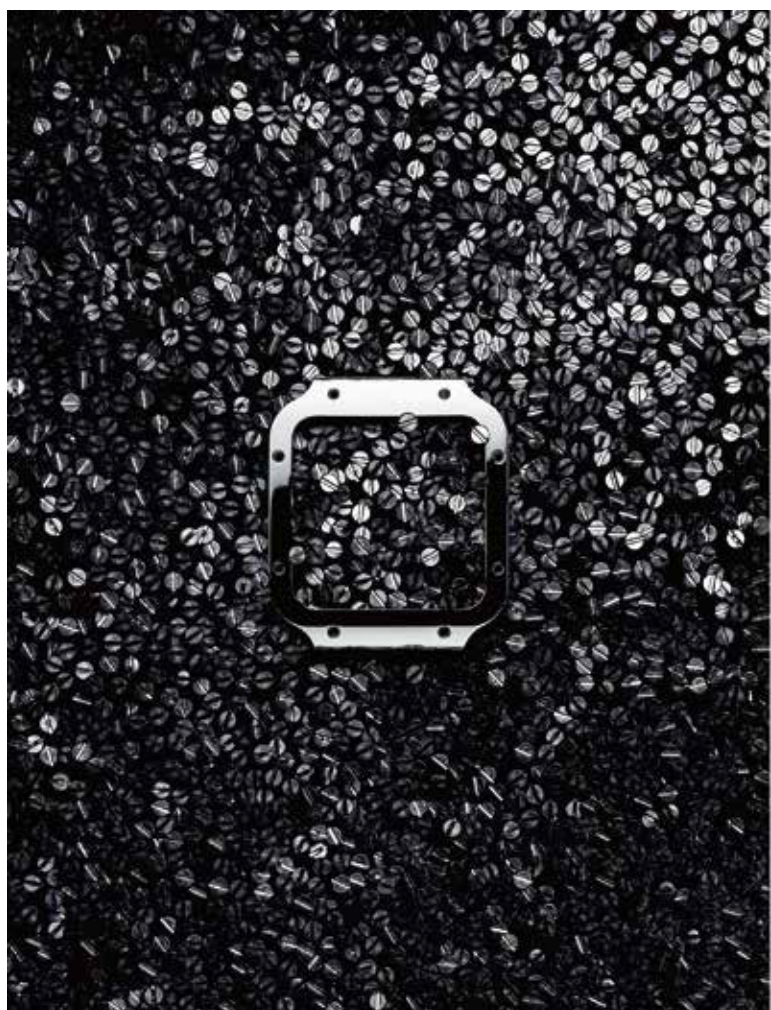


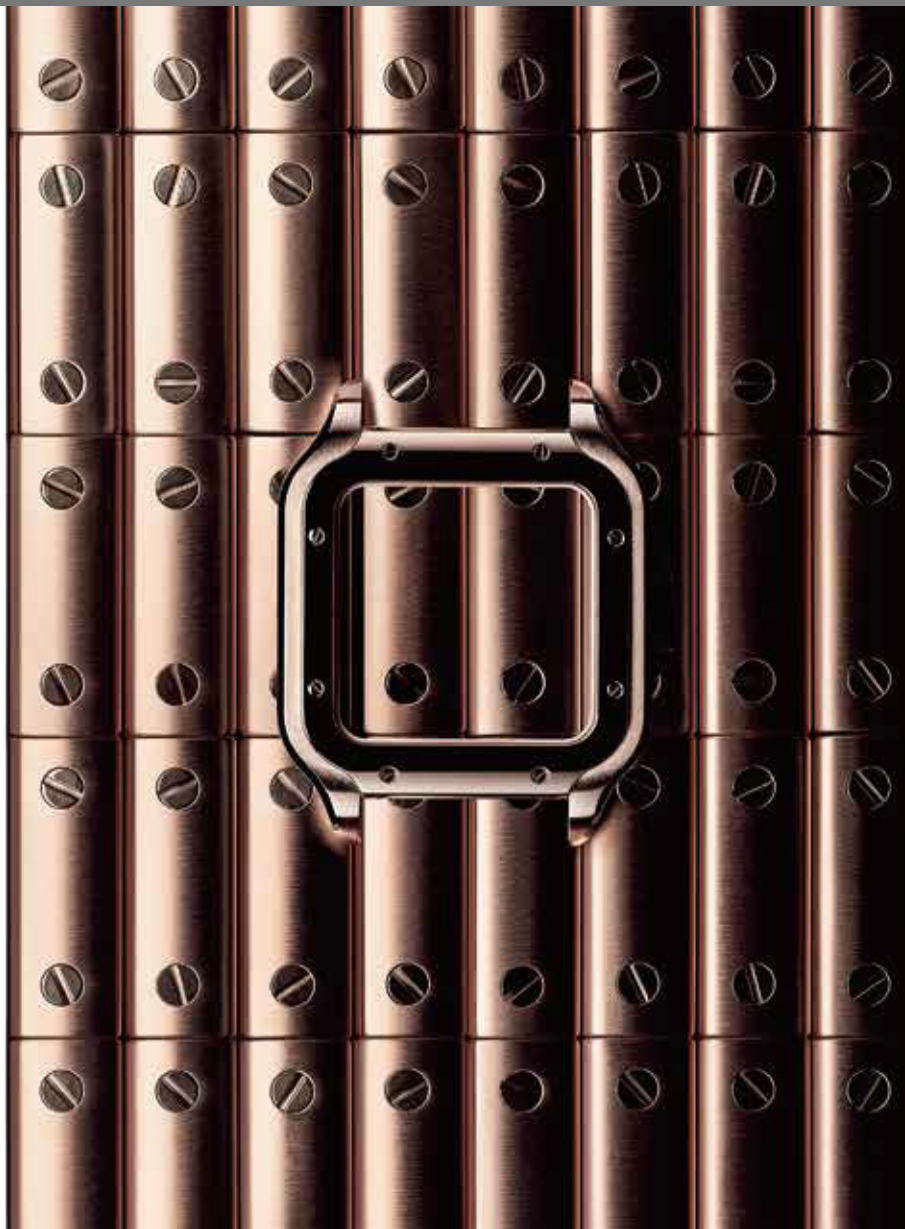
Biz [ビズスタ] Life Style



それは、革新的な発想。カルティエ。



Eric Sauvage © Cartier



Eric Sauvage © Cartier



腕時計の歴史は、このコレクションから始まった。

手元で現在時刻を確かめるだけであれば、それこそスマートフォンで代用できる時代。だが、本物を見分けるだけの知性を持つ大人たちは、時を知る方法にも「美」を求める。

その昔、外出先で時を知らせるのは、懐中時計の役割だった。それを手首に巻きつけ、知性と感性、美への意識を雄弁に表現できるアイテムへと昇華させたのはこのメンバだ。

1847年、パリで創業した「カルティエ」は、20世紀初頭には各国王室に出入りするジュエリーメンとして栄華を極めていた。時のイギリス国王エドワード7世をして「王の王、商、玉石商の王」とまで言わしめる成功を収めていたが、実はこの時期に、時計史に燦然と輝く金字塔を打ち立てている。

誕生から100年以上もブランドの顔であり続ける作品

カルティエが腕時計というスタイルそのものを開拓した理由については、有名な逸話が残っている。1904年に完成したレザーストラップ付きのウォッチ「サントス」は、その名の通り、発明家で著名な飛行家でもあったフランス系ブラジル人アルベルト・サントス＝デュモンに捧げられたものだ。「操縦しながら時刻を確認したい」という素朴な要望を受けたルイ・カルティエ本人が、腕に着けることを前提とした時計を着想し、デザインしたのだ。

特別に製作された「腕時計」は、後に「サントスドゥカル

ティエ」として製品化され、懐中時計を取り出す面倒から人々を解放することになる。まさに社会のあり方を変えたエポックメイキングな時計となったわけだが、それだけでは終わらなかった。サントスドゥカルティエは、今も同社を代表するコレクションのひとつであり続けている。何と、オリジナルの誕生から100年以上が経つ現在も新作が発表されている。

タイムレスな腕時計の最新コレクションが到着

人々に美しい「時」を告げるデザインは星の数ほどあるが、年表に名を刻むレベルの歴史的製品となると、厳しい条件が課せられる。それは、いわゆる「時の試練」を乗り越える普遍性を備えていることだ。1904年から今日まで基本的なフォルムを保つサントスは、その典型を述べてよいだろう。

数十年前の時を経て古びない美は、タイムレスと呼ばれる名品の必須条件。加えて、その時代にしか生まれ得なかつたエピソードを持ち、なおかつ今日現在も人々に愛される製品だけが得る称号なのだ。カルティエは、そんな「本物の美」をいくつも有しているが、中でもサントスドゥカルティエは白眉と言え、何しろ2018年に入ってから発表された新作「コレクション」が、世界的な「コース」になっているのだから。

世界の名門「ブランド」の新作

そして、もうひとつ。今回の新作「コレクション」は「腕に着けるウォッチ」ではなく、誕生したサントスの象徴たるストラップに、再び新機軸が投入された。

時計「コレクション」のオリジンに搭載された2つの新機軸

時代に先駆けて「レザー製ストラップ」を持ち込んだサントスは、素材選択の面でもパイオニアの役割を担ってきた。新コレクションでは、加えて「レザー」の面でも新たな地平を切り開く。「クイックスワッチ」は、スワンレステイラーやゴールド、カーフレザーやアクリルゲーターといったさまざまな素材のストラップを自由に交換できるように開発された独自機構だ。ケース自体の構造に組み込まれており、ストラップ裏をワンタッチするだけで作動する画期的な機構となっている。また、メタル製の「フレズベット」は、リンク単位でのサイズ調節を実現する「スマートリンク」も大きなトピックだ。

* * * *

いずれの機構も、特殊な道具を使うことなく、ルック&フィールをアレンジできる意欲的な技術だが、これらが「コレクション」のオリジンであるサントスに導入されたことは歴史的な意義を感じる向きが多い。ジャーナリストやコレクターたちが集つたS・I・Hが沸いたことは、理由があったのだ。

カルティエは毎年、後に名品と呼ばれるモデルを送り出している。今回のサントスは、そんな未来を予感させてくれた。

Santos de Cartier



サントスドゥ カルティエ
CRW2SA00007
MMモデル(35.1×41.9mm)
イエローゴールド、スチール
1,058,400円(税込)



サントスドゥ カルティエ
CRWSSA00009
LMモデル(39.8×47.5mm)
スチール
799,200円(税込)



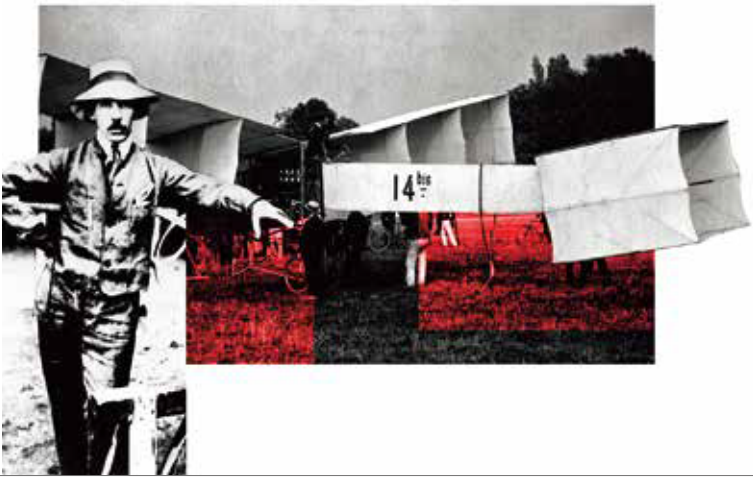
サントスドゥ カルティエ
CRWGSAA0011
LMモデル(39.8×47.5mm)
ピンクゴールド
2,397,600円(税込)



サントスドゥ カルティエ
CRWGSAA00007
LMモデル(39.8×47.5mm)
ピンクゴールド
4,352,400円(税込)



母国・ブラジルではリオデジャネイロの空港の名に、フランスのパリではストリートの名に、そして月ではクレーターの名に、宇宙開発プロジェクトではミッション名に。1897年に気球での飛行に成功し、1907年には飛行機の前身を発明したアルベルト・サントス＝デュモンは、航空界のバイオニアであると同時に自身の研究成果を無償で提供した篤志家でもあった。1904年に友人のルイ・カルティエが生み出した「サントス」は、時計製造業界に革命をもたらした。



My Favorite Life Style



パンテール ドゥ カルティエ
CRWSPN0007
MMモデル(27×37mm)
スチール
510,300円(税込)



パンテール ドゥ カルティエ
CRW2PN0007
MMモデル(27×37mm)
イエローゴールド、スチール
896,400円(税込)



パンテール ドゥ カルティエ
CRWGPN0006
SMモデル(22×30mm)
ピンクゴールド
2,214,000円(税込)



パンテール ドゥ カルティエ
CRWJPN0015
SMモデル(22×30mm)
イエローゴールド、ダイヤモンド
2,624,400円(税込)
5月発売予定

© Cartier

Panthère de Cartier

80年代の名作が突如甦る！
世界が驚いた新作コレクション

「カルティエは毎年のようにS.I.H.H.の耳目をさらっている」という表現は、決して誇張ではない。今年は「サントスドゥカルティエ」の話題でもちきりだったS.I.H.H.だが、1年前の同じ会場で賞賛を一身に集めたのも、やはりカルティエの名コレクションの新作だったのだ。

昨年のS.I.H.H.のニューラスとなったパンテールドゥカルティエは、ある意味では今年のサントス以上に衝撃的に映ったかもしれない。と言うのも、やはりレディースウォッチの歴史に残る名作でありながら、長らく新作が発表されていなかったのだが、突如としてその沈黙を破ったからだ。

ひとめでその美貌が分かるフェミニンなデザインは、世界的にファッションカルチャーが開いた1980年代の活気を表現したものだ。時代の空気感を見事に描いたこのコレクションも、ストラップ部分が非常に特徴的だった。もともと時計とジュエリーは近い関係にあるが、宝石やブレスレットと完全に溶け合うような官能的な美にまで引き上げたウォッチデザインは、カルティエの最高峰のひとつと言えるものだ。

セレブリティたちを中心に、世界中の女性たちにとっての自己表現のシンボルとなっ

たパンテールは、その鮮烈な時代性ゆえに流行の最前線で語られ、次の時代へとバトンを継いだ。だが、この新生パンテールドゥカルティエは、サントスをはじめとする同社の各コレクションと同様に「タイムレス」であることを証明した格好となった。

さらに美しく磨き上げられたエッジで現代性を表現しつつ、しなやかなリンクのブレスレットで優美な魅力を振りまくジュエリーとしてのタイムピース。フォーマルにもカジュアルにも対応可能で、美意識と言うよりも一人の女性としての精神性まで描くような複層的な美。その世界観の構築力には「さすがにカルティエ」とため息をつくしかない。

オリジナルモデルが発表された時代から人間社会は大きな変貌を遂げたが、この新たな時代にも、変わらず「女性の美」を贈りたい。そんな同社の想いが明確に表現された注目コレクションと言えるだろう。

* * * *

駆け足で注目コレクションを紹介してきたが、残念ながら、この誌面だけでは魅力の半分も届かない。なぜなら手に取り、腕に着けて初めて伝わる感覚こそが、カルティエウォッチの真骨頂だからだ。ひとたび実物の輝きに触れれば、きつと美への意識が変わるはずだ。

ジュエリーのように着こなす時計。パンテールドゥカルティエ。

Biz Life Style Pick up >>>

愛媛県内でカルティエの美を楽しむなら
松山市駅からすぐの「いよてつ高島屋」で。



いよてつ高島屋9階ローズホール、5月12日(土)・13日(日)とイベントを開催。

本物は店を選ぶだけに、カルティエはどこでも目にする製品ではないが、松山市民なら比較的気軽に会いに行ける。伊予鉄道松山市駅からすぐの「いよてつ高島屋」本館6階フロアのウォッチサロンでは、パテックフィリップやブライトリング、タグ・ホイヤーなど名門ブランドの魅力商品が揃う。中でもカルティエウォッチの品揃えは充実しており、本紙で紹介した名品を含む最新作や定番コレクションをじっくりと品定めできる。

スタッフと相談しながらの検討を楽しんだ後は、レストラン街でひと休み。天気に恵まれればお馴染みの大観覧車で楽しい休日をご過ごそう。

取り扱いブランド

カルティエ、パテックフィリップ、ブライトリング、タグ・ホイヤー、カシオ、シチズン、セイコー

いよてつ  Takashimaya MATSUYAMA

いよてつ高島屋
愛媛県松山市湊町5-1-1 TEL.089-948-2111
営業時間／10:00～19:30

www.iyotetsu-takashimaya.co.jp

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間／10:00～20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp